

～ ゆかりのまちを訪ねて ～

戊辰（ぼしん）150周年～福島県会津若松市（親善交流都市）～

今から約150年前、近代日本の幕開けは、新たな国家の出発点であると同時に、激しい抗争や戦争もあり、会津藩もまた、時代に大きく翻弄されることとなります。

ペリー来航を契機とする幕末の動乱の中、第9代会津藩主の松平容保（かたもり）は、幕府の命を受け、京都の治安維持に当たる京都守護職に就任します。就任の背景には、初代藩主保科正之が定めた家訓十五ヵ条にもある、「大君の義、一心大切に忠勤を存すべく、列国の例を以って自ら処するべからず」（第一条）という徳川本家への忠誠心がありました。

その後、大政奉還で幕府が政権を朝廷に返した後、薩摩藩、長州藩などの新政府側と、会津藩をはじめとする旧幕府側との対立は激しさを増し、1868（慶応4）年1月、両者は鳥羽・伏見の戦いで衝突、いわゆる戊辰戦争（「戊辰」はその年の干支にちなむ）が始まります。なお、鳥羽・伏見の戦いにおいて新政府軍は、天皇を象徴する菊の御紋が入った「錦の御旗」を掲げ、これに逆らう者を「官軍」に対する「賊軍」とみなし、旧幕府軍に大きな衝撃を与えました。

その後、戦火は東北へと広がり、会津藩を含む東北諸藩は奥羽越列藩同盟を結び、抵抗する姿勢を見せましたが、8月には新政府軍が会津攻撃を開始し、若松城下へとなだれ込みました（会津戦争）。

白虎隊の凄絶な最期や、山本八重ら婦人たちの奮闘がありながらも、徐々に新政府軍に押し込まれた会津藩は若松城まで撤退し、1か月に及ぶ籠城戦を繰り広げますが、この間、周辺の諸藩が新政府軍に恭順を示したことで、会津藩は孤立し、9月22日、ついに容保は降伏の白旗を掲げます。ここに、最後まで徳川家への忠義を示した会津藩の戦いは幕を閉じ、戊辰戦争は箱館・五稜郭へと局面を移していきます。

会津戦争終結から150年を迎える今年、会津若松市では、多くの苦難と闘いながらも新しい未来のために情熱を燃やし、前を向いて生きた先人の功績と深い歴史を再認識し、これからの未来へとつなげていくため、様々な記念事業が行われる予定です。

問合せ 企画政策課 ☎ 21-2117

【余市観光協会からのお知らせ】

余市ゆき物語

【余市ゆき物語～ウイスキー・ワインボトルでライトアップコンテスト】結果発表！！

昨年12月1日より開催していたライトアップコンテストは、1月31日をもって終了しました。応募総数は5件にとどまりましたが、ウイスキーボトル、ワインボトルはみなさん余市町にちなんだものを使用してくださり、余市町らしいとても素敵なライトアップにしてくださいました！！審査の結果、最優秀賞は黒川町のMさん宅に決定！！賞品としてりんごジュースを進呈させていただきました！

開催期間中のライトアップの画像は当観光協会のフェイスブックにてご紹介しています。

（FB「よいち再発見」：<https://www.facebook.com/town.yoichi.hokkaido/>）

【よいち雪あかりの路 in ニッカナイトツアー】ボランティアのお礼

1月20日・27日に開催した「よいち雪あかりの路 in ニッカナイトツアー」にボランティアで参加してくださいました皆様、大変ありがとうございました。

おかげさまでツアー参加者の皆様からは大変ご好評をいただき、幻想的な空間にとっても満足していただくことができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



問合せ 余市観光協会 ☎ 22-4115 / E-mail : info@yoichi-kankoukyoukai.com